

第11回「送配電コンプライアンス委員会」議事要旨

1. 日 時

2023年11月22日（水）14:00～15:00

2. 委 員

一般送配電事業者（10社）の社長、送配電網協議会事務局長、外部より招聘した弁護士および公認会計士（各1名）

3. 議事要旨

（1）残存リスクの洗い出しについて

<討議目的>

第9回委員会（9/13）において議論した想定リスクに対して、今回の再発防止策を進めてもなお残るリスクについて議論。

<討議内容>

- ・ 今後PDCAサイクルを回していく中で残存リスクを網羅的に洗い出していくためには、個々の問題に潜む根本的な原因を見極める力をレベルアップしていく必要があり、残存リスクを抽出した際の留意点等を整理しリスク抽出方法の共通化を図っていくことが重要との意見があり、これまでのリスク抽出作業の中で識別したリスクやそれに対する対応策案に基づく細則主義的なルール作りにとどめることなく、リスクの背景や原因を併せて明文化したルール作りを進めていくこととした。
- ・ 再委託先による情報漏洩リスクへの対応策としては、再委託先にも同等の義務を実効的に課すことが必要であり、直接発注元から再委託先への立ち入りや定期・臨時の報告を求めることが出来るような再委託先の義務履行を実効化するための仕組みとしておくことが重要との意見があり、委託契約書への記載漏れがないように社内ルールに明文化する等、各社社内の実態に応じて議論のうえ対応していくことを確認した。

（2）業界内相互チェックの進捗状況について

<討議目的>

業界内相互チェックのチェック項目および試行実施したチェック結果、ならびに今後の進め方について議論。

<討議内容>

- ・ これまでの相互チェックの実施状況を踏まえて、相互チェックの実施時間等の運用について柔軟に対応していくことを確認するとともに、業界内相互チェックを通じて出てきた好事例を取りまとめたものを業界内で水平展開し、各社の今後の取り組みに活かしていくこととした。

- ・ 将来的には、各社の取り組み内容比較によるベンチマークのみならず、各社の取り組みと改善結果が時系列で分かるような時間軸比較でのベンチマークや、三線管理における各組織の要員数や管理・監査工数等の定量的な分析にも取り組むことが望ましいとの意見があり、各社が取り組みを進めるうえで参考となる比較・ベンチマーク手法について引き続き検討していくこととした。

以 上